

天理市喜殿町

喜殿池遺跡

—埋蔵文化財発掘調査概要—



南5区 自然河川跡の検出(東方から)

2003

天理市教育委員会

例　言

- 1、本書は、天理市教育委員会が、奈良県天理市喜殿町字六の坪117-1番地において実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
- 2、本書は、近畿農政局大和平野農地防災事業所が実施する土木工事に伴い、実施した埋蔵文化財調査の報告である。
- 3、調査は、近畿農政局大和平野農地防災事業所長が届け出を提出し、奈良県教育委員会教育長の通知を得て、県文化財保存課の指導により天理市が現地調査を実施したものである。
- 4、調査に際しては、近畿農政局大和平野農地防災事業所・工務官三好孝之氏と協議の上、発掘調査を行い。株式会社山上組土木部工事所長藤崎哲夫氏及び地元の方々の協力を得た。
- 5、発掘調査並びに本書の作成は、天理市教育委員会生涯学習課文化財係技術吏員松本洋明が行った。

喜殿池遺跡の調査

所在 地：奈良県天理市喜殿町六ノ坪117-1番地

目 的：ため池改修工事に伴う事前の文化財調査

調査機関：天理市教育委員会

調査期間：平成14年12月19日～平成15年2月7日

(1)はじめに

奈良県天理市の中央部、近畿日本鉄道前橋駅から北方800mに喜殿池遺跡が所在する。遺跡の周辺は市街化調整区域であり広大な田畠が展開している。文化財調査も同地域では立ち会い程度で事例が少なく、遺跡の性格や年代などは不明なものが多い。喜殿池遺跡も田畠に散布する遺物から土器類などが表面採集されており周知の遺跡として奈良県遺跡地図・第1分冊の8-D-No134に指示されているが、未調査の遺跡で実態は分かっていなかった。

近畿農政局では、農地防災事業としてため池改修工事を進めているが、平成14年度事業として喜殿池についても堤の改修工事を実施することになった。喜殿池遺跡は、改修工事が計画された喜殿池の東側から南側にかけて所在し、改修事業では堤の護岸工事を実施するため、その基礎工事に際して遺跡への影響が予測された。よって、文化財調査を行ったものであるが、調査方法は、遺跡に接しているため池の東辺と南辺に沿って調査区を設定し、重機と作業員を得て遺跡調査を実施した。発掘調査は、現地調査を平成14年12月19日から平成15年1月15日まで実施し、出土した土器破片の洗浄及び観察作業を平成15年2月3日から2月7日まで行い調査概要報告書の作成に従事した。



図1 喜殿池遺跡の位置図 (S 1/25000)

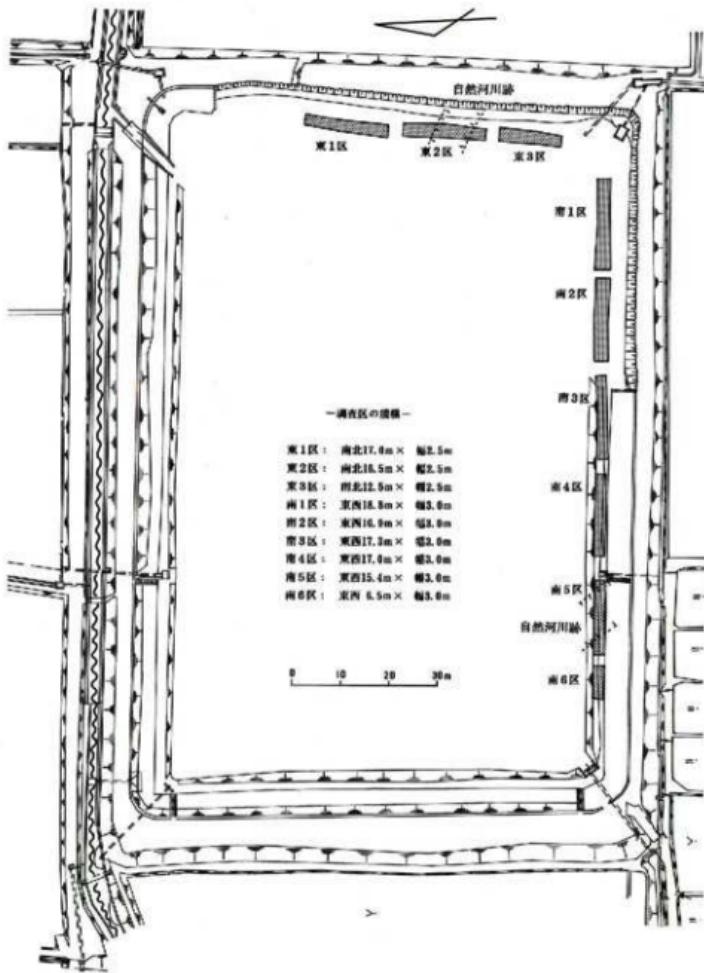


図2 ため池調査区配置図 (S 1/1000)

(2) 調査の状況

a、東堤岸の調査

ため池の東堤に沿うおよそ50mの区間において、東1区から東3区まで3カ所に調査区を設定した。東堤岸ではため池の水際に伴う浸食が激しく、既に遺物包含層や遺構は認められなかった。なお、東2区から東3区にかけて自然河川跡に伴う落ち込みが認められ、落ち込み内には粘土層や砂礫層の堆積を見た。出土遺物は認められなかった。また、ため池の岸辺の覆土から弥生後期の土器破片が出土しているが、遺構は確認していない。調査区の近辺に遺跡の存在が推測される程度に止まった。検出した自然河川は、幅10mほどの南東から北西に延びる流路で喜殿池付近が水田開発される前の地形的痕跡を留めたものであろう。

b、南堤岸の調査

ため池の南堤に沿うおよそ120mの区間ににおいて、南1区から南6区まで6カ所に調査区を設定した。調査では、ため池の表面からおよそ70cmほど掘り下げ遺跡の確認に努めたが、ため池の水際に伴う浸食や搅乱が激しく遺物包含層や遺構の痕跡を見ていません。なお、岸辺に堆積していた覆土から少量の須恵器など土器破片を見つけています。また、ため池の南岸に設定した南5区から、おびただしい砂礫を伴う自然河川跡を検出している(表紙写真)。河川跡は、南東から北西に流れ遺物を含まない。



写真1 南堤岸の調査状況（東方から）



写真2 東3区の土層断面

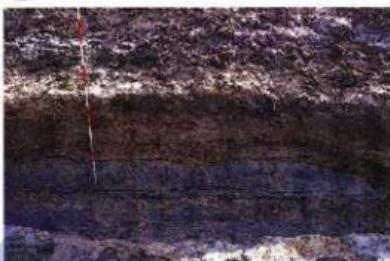


写真3 南1区の土層断面

(3) まとめ

遺跡の範囲に接する喜殿池の東岸と南岸を中心に調査区を設定し遺跡の確認に努めたが、その実態を十分に把握することが出来なかった。調査は、護岸工事を計画する施工部分に調査区を設定したが、既に浸食や搅乱が激しく残念だが遺跡を留める地層が施工部分には残っていないのである。また、調査で検出した自然河川跡は、深く落ち込んだ部分が地層中に残っていたものと推測する。弥生・古墳時代にかけて流れていたと考えるが自然河川に伴う包含層も確認していない。なお、遺物は土器破片に限られるが、弥生後期土器、古墳時代の須恵器など数点が出土した。いずれも、ため池の岸辺に堆積する覆土中から見つかったもので、付近に遺跡が所在していたことを示すものであろう。

喜殿池遺跡の最初の調査であるが、遺跡の性格や特徴を知るものではなかった。今後は、この調査を事例として、遺跡の実態が明らかになることを望む。



写真4 東堤岸の調査区全景（北方より・手前が東1区）



写真5 東堤岸の調査区全景（南方より・手前が東3区）



写真6 南堤岸の調査区全景（東方より・手前が南1区）



写真7 南堤岸の調査区全景（西方より・手前が南6区）



喜殿池遺跡の調査風景

平成14年度文化財調査
天理市喜殿町 喜殿池遺跡
— 型蔵文化財発掘調査概要 —

平成15年3月発行
編集 天理市教育委員会
印刷 (株)天理時報社 天理市稻葉町80番地